

指標シート

自 平成30年4月1日
至 平成31年3月31日

全体

(単位:千円)

	指標	計算方法	金額等
貸借対照表	資産合計		250,767,299
	負債合計		135,228,746
	純資産合計		115,538,554
	固定資産等形成分		239,847,356
	余剰分(不足分)		△ 124,308,803
	他団体出資等分(連結の場合のみ)		-
行政コスト計算書	経常費用		65,698,425
	経常収益		17,690,785
	純経常行政コスト		△ 48,007,640
	純行政コスト		△ 49,693,035
純資産変動計算書	財源		48,891,479
	本年度差額		△ 801,556
	本年度純資産変動額		△ 550,798
	本年度末純資産残高		115,538,554
資金収支計算書	業務活動収支		5,023,890
	投資活動収支		△ 3,742,124
	財務活動収支		△ 251,030
	本年度末現金預金残高		8,094,608
主要指標	資産老朽化比率	減価償却累計額／公共資産合計－土地＋減価償却累計額	54.2 %
	将来世代負担比率	地方債残高93,360,105千円／有形・無形固定資産合計225,398,964千円	41.4 %
	債務償還可能年数	(将来負担額－充当可能基金)／(資金収支計算書の業務収入＋減収補填債特例分発行額＋臨時財政対策債発行可能額－業務支出)	8.7 年
	将来負担額※1		76,959,615
	充当可能基金※1		9,481,010
	業務収入等	業務収入＋減収補填債特例分発行額＋臨時財政対策債発行可能額	64,609,470
	業務支出		56,830,946

※1 将来負担額及び充当可能基金残高については、地方公共団体財政健全化法上の将来負担比率の算定式による。

※2 業務収入は、資金収支計算書(地方公会計)における業務収入(地方税、地方交付税等)による。

また、「業務収入等＝業務収入＋減収補填債特例分発行額＋臨時財政対策債発行可能額」とする。